

平成 30 年 5 月 18 日  
気 象 庁 予 報 部

## 配信資料に関する技術情報 第 491 号

～解析雨量・降水短時間予報（各速報版含む）の改良について～  
（配信資料に関する技術情報第 475 号関連）

気象庁では、気象レーダー観測やアメダス観測の資料を即時的に解析することにより、現在までの 1 時間の降水量を示す解析雨量と、これを初期値として 6 時間先までの降水量を予測する降水短時間予報を提供しています。

今般、配信資料に関する技術情報第 475 号でお知らせした高解像度降水ナウキャストで利用している手法と同じ手法により、解析雨量、速報版解析雨量、降水短時間予報及び速報版降水短時間予報における海上の強い非降水エコーの影響を軽減する改良を行います。

なお、今回の変更に伴う配信資料のフォーマット等の変更はありません。

### 1. 変更日時

#### 解析雨量

平成 30 年 5 月 23 日 13 時 00 分（日本時間、以下同じ）を対象とする資料  
降水短時間予報

平成 30 年 5 月 23 日 13 時 00 分を初期値とする資料  
速報版解析雨量

平成 30 年 5 月 23 日 13 時 10 分を対象とする資料  
速報版降水短時間予報

平成 30 年 5 月 23 日 13 時 10 分を初期値とする資料

### 2. 改良の内容

気象レーダー観測では、アンテナから送信された電波が雨滴によって反射される割合を測定することにより降水の強さを観測します。この際、大気の状態により電波が屈折して海面で反射された時に海上の波しぶきをとらえてしまうなど、実際には降水がないにもかかわらず、見かけ上降水があるように観測されることがあります。これを「非降水エコー」といいます。

海上の波しぶきをとらえてしまうことによる非降水エコーは特に春先に顕著に発生することがあり、解析雨量や降水短時間予報では遠方の海上で過大な降水があるように表示されることがあります。

今般、気象衛星ひまわりの赤外観測データを利用することにより、海上の非降水エコーによる降水分布を縮小または降水強度を弱める改良を行います。

### 3. 改良の具体例

図1は2017年4月29日8時30分の解析雨量です。改良前の解析雨量では、山陰沖に非降水エコー起源の強い降水が見られますが、改良後では、降水量が減少していることが分かります。

図2は2017年4月29日8時30分初期値の降水短時間予報です。改良前に比べて、改良後は山陰沖で全予報時刻降水量が減少していることが分かります。

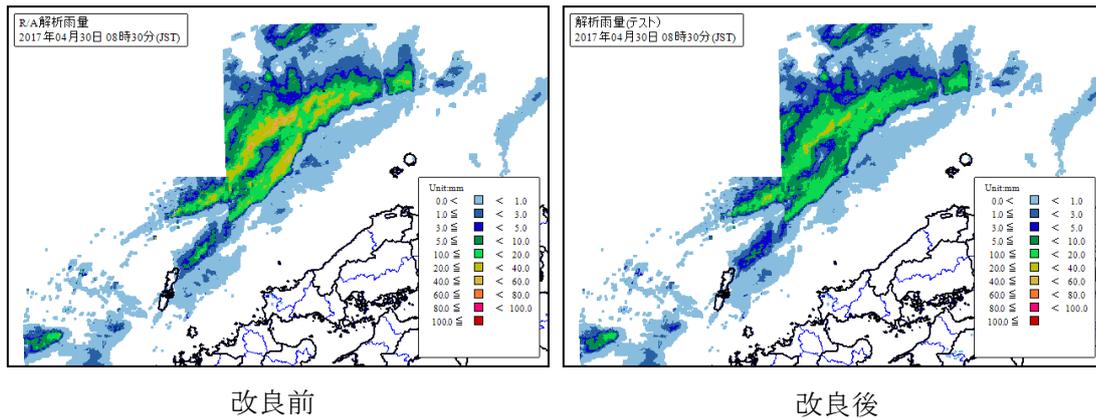


図1 2017年4月29日 8時30分の解析雨量

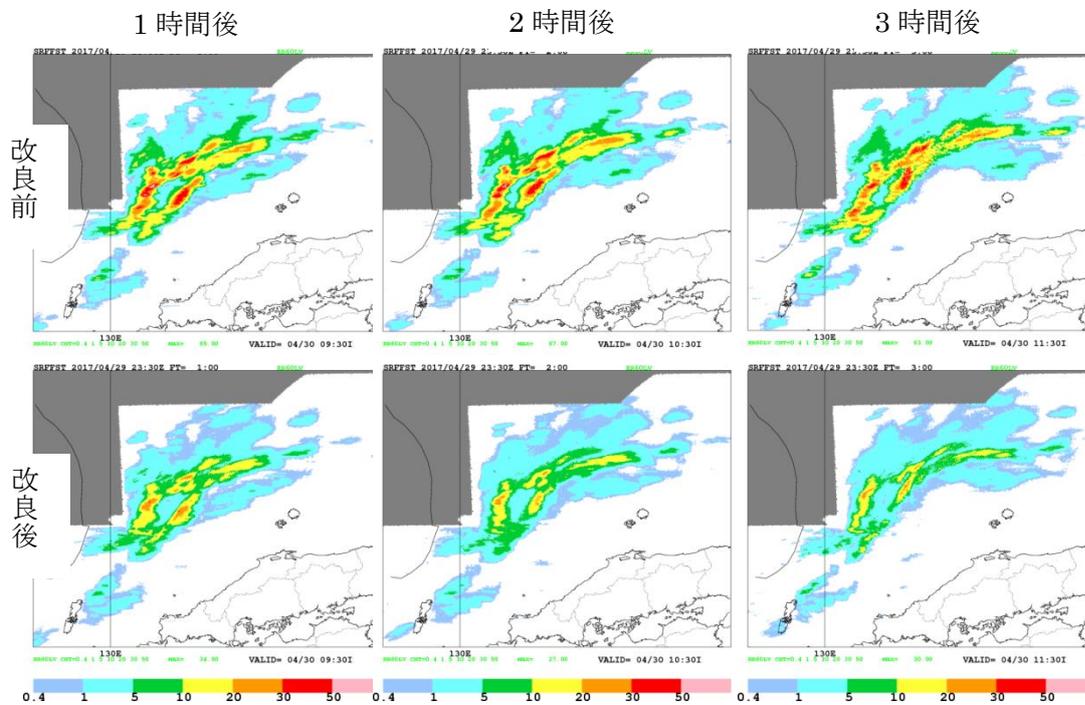


図2 2017年4月29日 8時30分初期値の降水短時間予報